# ジェラルド F ダ クス、 ーメソジスト教会、米国（パ ト1／4）

：

明:“The Cross and the Crescent（十字架と三日月）”の著者であり学者でもあるダ クスの生い立ち、そしてハ バ ド「ホリス」神学校での勉学によってキリスト教から目を ました彼の逸 。パ ト1。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 者と宗教的 威

より: ジェラルド F ダ クス

日28 Mar 2011

集日 28 Mar 2011

私にとって最も古い の一つに、生まれ育った小さな郊外の町にあった教会で耳にした、日曜朝の礼 の の音があります。メソジスト教会は 塔のある木造の古い建物で、子供たちの日曜学校が2クラス、そしてクラスと とを隔てる木 の扉、また中二 の 歌 席では年の子供たちのための日曜学校が かれていました。ここは私の家から2ブロック程度しかれていませんでした。 が ると、私たちは家族でここを れ、教会への“巡礼”を 行なっていました。

1950年代当 、3つの教会は人口 500人の町における地域社会の中心でした。私の家族が所属していたメソジスト教会は、手作りアイスクリ ムを配ったアイスクリ ム 会、チキン ポットパイの夕食会、ロ ストコ ンなどを提供する集まりを いたものでした。私と家族はそれら3つに常に わっていましたが、それぞれ年に一度しか行なわれませんでした。それに加え、 年6月には2 の 学校があり、私はそこに初等教育の8年 ずっと出席し けました。日曜朝の礼 と日曜学校は に一度だけだったため、私は皆勤のブロ チ、そしてバイブルの の暗 をより多く 得して自分のコレクションを やすことに努力しました。

私が中等学校に む になると、地元のメソジスト教会が されてしまったため、私たちは町のメソジスト教会に通うようになりました。そこは私たちの住んでいた町よりも、

模が かに大きい程度でした。そこで私は将来　者になろうという目 を持ち始めました。私はメソジスト青年 睦会での活 を 始し、やがて地域の役 として奉仕しました。また、私は年度の青年日曜日礼 で“ 教者”となりました。私の 教は地域全体で注目を浴び始め、すぐに他の教会でも 教 に立つようになりました。また老人ホ ムや教会　の青年男女グル プなどでも 教し、それらの 所で空前の人手を集めました。

17 になると私はハ バ ド大学へ 学し、牧 になるという 意をしました。1年生の 、二学期制の比 宗教の科目を履修し、イスラ ムを　とするウィルフレッド カントウェル スミス教授による　を受けました。その科目を受けている最中、私はヒンズ 教や 教などの他の宗教に比べ、イスラ ムに しては至 低い 心しか抱いていませんでした。前者二つの宗教の方が、よほど秘教的で不思 な感じがしたからです。 照的に、イスラ ムは 分自分の宗教であるキリスト教に似通っているように思えました。このため私は自分がそうすべきであった程に努力しませんでしたが、クルア ンにおける 示の概念というレポ トを提出した　はあります。いずれにせよ、その科目は学究的基 と要求において 格であったため、私はイスラ ムに する本を六 も手に入れましたが、それらは全てノン ムスリムによってかれたものであり、その 25年 に渡り、私はそれらの世 になりました。また、私は なるクルア ンの英 翻 版を二 入手し、 々目を通していました。

その春、ハ バ ドは私をホリス学者として指名しました。それは私が大学における神学生の内の 等生の1人であることを意味しました。ハ バ ドの一年生から二年生に 学する前の夏休み、私は比 的大きな 一メソジスト教会で青年牧 として きました。翌年の夏、私は 一メソジスト教会から宣教 としてのライセンスを取得しました。1971年のハ バ ド大学卒 に し、私はハ バ ド神学校に入学し、1974年には神学修士号を取得しました。そのには既に、 一メソジスト教会によって1972年に助祭として任命され、ハ バ ド神学校 学金の 足として、スチュワ ト 学金を受けました。神学校での勉学において、私はボストンで病院牧 として二年 のエクスタ ンシップ プログラムを完了しました。ハ バ ド神学校からの卒 に いて、私はカンサス郊外の二つの 一メソジスト教会において夏期宣教 として ごしました。それらの教会での参会者数も数年 で最も多くを　しました。

外 から れば、私は高い教育を得た、日曜朝の礼 に多くの　を集めることの出来る、　者への道の全 面において成功を めた、将来を 束された若き　者でした。しかし内 から ると、私は　者としての 任において、自分の 人的　さを保つため常に っていたのです。この いは、おそらく 人的 性的モラルを 持しようと努めて失 した、一部のテレヴァンゲリストたち*
によるものなどとは くかけ れたものでした。同 に、 代の新 の 出しを る、小 性 者の　者たちとも全く なる いでした。私の 人的　さを保つための いの殆どは、学 と学 のある、　者仲に してのものだったのです。

最も卓越した、 明で、理想的な将来の次期　者たちは最も充 した神学教育をハ バ ド神学校において受けています。しかし皮肉なことにそういった教育を受けていながら、神学生らは次のような 史的事 に晒されています:

１）初期の“主流な”教会の成立と、それが地政学的要因によっていかにして形成されたか;

２） 々な“オリジナル”のバイブルのテキストと、 在キリスト教徒たちが手にするものの大半との には尖 な いがあるが、徐々にこの知 が新しいもの、あるいはより良い翻とされるものに み まれたこと;

３）神格における三位一体、イエス（神の慈悲と祝福あれ）の“子性”といった概念の 展;

４）多くのキリスト教信仰と教 において基 となる非宗教的考 ;

５）三位一体の概念、そしてイエス（神の慈悲と祝福あれ）の神性を して受け入れなかった初期の教会とキリスト教　の存在;

６）その他。（神学教育によって得た成果は拙著 The Cross and the Crescent: Dialogue between Christianity and Islam, Amana Publications, 2001で しく叙述されています。）

そのため、そういった神学校卒 生の大半が卒 するのは、彼らが真 ではないと知ること
についての宣教を求められる“ 教 に立つため”なのではなく、 々な に就くためなので
す。それは私にも当てはまっており、私は 床心理学の修士、博士号を 得しました。私
が自分自身をキリスト教徒であると自称したのは、自己 の同一性において必要なこと
だったのであり、私の本 はメンタルヘルス 家でしたが、 局は任命された 者だったので
す。しかし、私の神学教育による学 は、三位一体 、またはイエス（神の慈悲と祝福あ
れ）の神格性に するどのような も封じ めてしまいました。（ 者らはこれらの教会によ
る教 を信者たちよりも信じていない 向があり、 者らは“神の子”といったような用 を
的に理解し、教区民は逐 的に理解していることが によって明らかにされています。）
って、私は“クリスマスとイ スタ のみのキリスト教徒”となり、教会への出席は非常
に散 的で、私が うと 信する 教を耳にすると を らせ舌を んだのです。

上期のような理由によって、かつてよりも私の宗教心や精神性が低下したということ
を示したいのではありません。私は定期的に祈りを捧げ、私による至高の神への信仰
は 固かつ安定したものでした。私は教会や日曜学校で った通りの 理に沿って 人的生活
を んできました。私はただ に、 教による多大なる影 や多神教的概念、また ぎ去った 代
の地政学的要因を抱え んだ教会 による、人工的な教 や信条を信じ むことが出来なかっ
たのです。

---

Footnotes:

* テレヴァンゲリスト＝テレビを用いて 教する 道 という意味の造 。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/102

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2024 IslamReligion.com. 断 を禁じます。